

ケナコルト-A 筋注用関節腔内用水懸注 40mg/ 1 mL

【この薬は？】

販売名	ケナコルト-A 筋注用関節腔内用水懸注 40mg/ 1 mL KENACORT-A INTRAMUSCULAR ・ INTRAARTICULAR Aqueous Suspension Injection 40mg/1mL
一般名	トリアムシノロンアセトニド Triamcinolone Acetonide
含有量 (1バイアル中)	40mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<http://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、合成副腎皮質ホルモン剤（ステロイド）と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、炎症やアレルギー症状を改善したり、免疫を抑制するなどさまざまな働きがあります。
- ・次の病気または次の目的で医療機関で使用されます。

(注) *：経口投与不能時。

*：外用剤を用いても効果が不十分な場合あるいは十分な効果を期待し得ないと推定される場合にのみ用いること。

(筋肉内注射)

○慢性副腎皮質機能不全(原発性、続発性、下垂体性、医原性)、*副腎性器症候

- 群、*亜急性甲状腺炎、*甲状腺中毒症〔甲状腺(中毒性)クリーゼ〕
- 関節リウマチ、若年性関節リウマチ(スチル病を含む)、リウマチ熱(リウマチ性心炎を含む)、リウマチ性多発筋痛
- エリテマトーデス(全身性及び慢性円板状)、全身性血管炎(大動脈炎症候群、結節性動脈周囲炎、多発性動脈炎、ヴェゲナ肉芽腫症を含む)、多発性筋炎(皮膚筋炎)、*強皮症
- *ネフローゼ及びネフローゼ症候群
- *うっ血性心不全
- 気管支喘息(但し、筋肉内注射以外の投与方法では不適當な場合に限る)、*薬剤その他の化学物質によるアレルギー・中毒(薬疹、中毒疹を含む)、*血清病
- *重症感染症(化学療法と併用する)
- *溶血性貧血(免疫性又は免疫性機序の疑われるもの)、*白血病(急性白血病、慢性骨髄性白血病の急性転化、慢性リンパ性白血病)(皮膚白血病を含む)、*顆粒球減少症(本態、続発性)、*紫斑病(血小板減少性及び血小板非減少性)、*再生不良性貧血、*凝固因子の障害による出血性素因
- *限局性腸炎、*潰瘍性大腸炎
- *重症消耗性疾患の全身状態の改善(癌末期、スプルーを含む)
- *肝硬変(活動型、難治性腹水を伴うもの、胆汁うっ滞を伴うもの)
- *脳脊髄炎(脳炎、脊髄炎を含む)(但し、一次性脳炎の場合は頭蓋内圧亢進症状がみられ、かつ他剤で効果が不十分なときに短期間用いること)、*末梢神経炎(ギランバレー症候群を含む)、*重症筋無力症、*多発性硬化症(視束脊髄炎を含む)、*小舞蹈病、*顔面神経麻痺、*脊髄蜘蛛膜炎
- *悪性リンパ腫(リンパ肉腫症、細網肉腫症、ホジキン病、皮膚細網症、菌状息肉症)及び類似疾患(近縁疾患)、*好酸性肉芽腫
- *特発性低血糖症
- 副腎摘除、*臓器・組織移植、*副腎皮質機能不全患者に対する外科的侵襲
- *蛇毒・昆虫毒(重症の虫さされを含む)
- 強直性脊椎炎(リウマチ性脊椎炎)
- *卵管整形術後の癒着防止
- *前立腺癌(他の療法が無効な場合)、*乳癌の再発転移
- **湿疹・皮膚炎群(急性湿疹、亜急性湿疹、慢性湿疹、接触皮膚炎、貨幣状湿疹、自家感作性皮膚炎、アトピー皮膚炎、乳・幼・小児湿疹、ビダール苔癬、その他の神経皮膚炎、脂漏性皮膚炎、進行性指掌角皮症、その他の手指の皮膚炎、陰部あるいは肛門湿疹、耳介及び外耳道の湿疹・皮膚炎、鼻前庭及び鼻翼周辺の湿疹・皮膚炎など)(但し、重症例以外は極力投与しないこと)、*蕁麻疹(慢性例を除く)(重症例に限る)、**乾癬及び類症〔尋常性乾癬(重症例)、関節症性乾癬、乾癬性紅皮症、膿疱性乾癬、稽留性肢端皮膚炎、疱疹状膿痂疹、ライター症候群〕、**掌蹠膿疱症(重症例に限る)、**扁平苔癬(重

症例に限る)、*成年性浮腫性硬化症、*紅斑症(*多形滲出性紅斑、結節性紅斑)(但し、多形滲出性紅斑の場合は重症例に限る)、*粘膜皮膚眼症候群〔開口部びらん性外皮症、スチブンス・ジョンソン病、皮膚口内炎、フックス症候群、ペーチェット病(眼症状のない場合)、リップシュッツ急性陰門潰瘍〕、天疱瘡群(尋常性天疱瘡、落葉状天疱瘡、Senear-Usher症候群、増殖性天疱瘡)、*デューリング疱疹状皮膚炎(類天疱瘡、妊娠性疱疹を含む)、*帯状疱疹(重症例に限る)、**紅皮症(ヘブラ紅色剝糠疹を含む)

- **痒疹群(小児ストロフルス、蕁麻疹様苔癬、固定蕁麻疹を含む)(但し、重症例に限る。また、固定蕁麻疹は局注が望ましい)
- *内眼・視神経・眼窩・眼筋の炎症性疾患の対症療法(ブドウ膜炎、網脈絡膜炎、網膜血管炎、視神経炎、眼窩炎性偽腫瘍、眼窩漏斗尖端部症候群、眼筋麻痺)、*外眼部及び前眼部の炎症性疾患の対症療法で点眼が不適當又は不十分な場合(眼瞼炎、結膜炎、角膜炎、強膜炎、虹彩毛様体炎)
- *急性・慢性中耳炎、*滲出性中耳炎・耳管狭窄症、アレルギー性鼻炎、花粉症(枯草熱)、副鼻腔炎・鼻茸、喉頭炎・喉頭浮腫、*喉頭ポリープ・結節、*食道の炎症(腐蝕性食道炎、直達鏡使用後)及び食道拡張術後、耳鼻咽喉科領域の手術後の後療法
- 口腔外科領域手術後の後療法

(関節腔内注射)

- 関節リウマチ、若年性関節リウマチ(スチル病を含む)
- 強直性脊椎炎(リウマチ性脊椎炎)に伴う四肢関節炎、変形性関節症(炎症症状がはっきり認められる場合)、外傷後関節炎、非感染性慢性関節炎

(軟組織内注射)

- 関節周囲炎(非感染性のものに限る)、腱炎(非感染性のものに限る)、腱周囲炎(非感染性のものに限る)
- 耳鼻咽喉科領域の手術後の後療法
- 難治性口内炎及び舌炎(局所療法で治癒しないもの)

(腱鞘内注射)

- 関節周囲炎(非感染性のものに限る)、腱炎(非感染性のものに限る)、腱鞘炎(非感染性のものに限る)、腱周囲炎(非感染性のものに限る)

(滑液嚢内注入)

- 関節周囲炎(非感染性のものに限る)、腱周囲炎(非感染性のものに限る)、滑液包炎(非感染性のものに限る)

(ネブライザー)

○気管支喘息

○びまん性間質性肺炎（肺線維症）（放射線肺臓炎を含む）

○アレルギー性鼻炎、花粉症（枯草熱）、副鼻腔炎・鼻茸、喉頭炎・喉頭浮腫、喉頭ポリープ・結節、食道の炎症（腐蝕性食道炎、直達鏡使用後）及び食道拡張術後、耳鼻咽喉科領域の手術後の後療法

(鼻腔内注入)

○アレルギー性鼻炎、花粉症（枯草熱）、副鼻腔炎・鼻茸、耳鼻咽喉科領域の手術後の後療法

(副鼻腔内注入)

○副鼻腔炎・鼻茸、耳鼻咽喉科領域の手術後の後療法

(鼻甲介内注射)

○アレルギー性鼻炎、花粉症（枯草熱）、耳鼻咽喉科領域の手術後の後療法

(鼻茸内注射)

○副鼻腔炎・鼻茸

(喉頭・気管注入)

○喉頭炎・喉頭浮腫、喉頭ポリープ・結節、耳鼻咽喉科領域の手術後の後療法

(中耳腔内注入)

○急性・慢性中耳炎、滲出性中耳炎・耳管狭窄症、耳鼻咽喉科領域の手術後の後療法

(耳管内注入)

○滲出性中耳炎・耳管狭窄症

(食道注入)

○食道の炎症（腐蝕性食道炎、直達鏡使用後）及び食道拡張術後、耳鼻咽喉科領域の手術後の後療法

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人または部位に、この薬を使用することはできません。

- ・過去にケナコルト-A筋注用関節腔内用水懸注に含まれる成分で過敏な反応を経験したことがある人

- ・感染症にかかっている関節腔内、滑液嚢内、腱鞘内又は腱周囲
 - ・動揺関節（関節が不安定な状態）のある人
- 次の人は、原則として、この薬を使用することはできません。
- ・有効な抗菌剤のない感染症にかかっている人、全身の真菌症にかかっている人
 - ・消化性潰瘍のある人
 - ・精神病の人
 - ・結核にかかっている人
 - ・単純疱疹性角膜炎の人
 - ・後のう白内障の人
 - ・緑内障の人
 - ・高血圧の人
 - ・電解質異常のある人
 - ・血栓症の人
 - ・最近行った内臓の手術の傷のある人
 - ・急性心筋梗塞を起こした人

○次の人は、慎重に使う必要があります。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。

- ・感染症にかかっている人
- ・糖尿病の人
- ・骨粗しょう症の人
- ・腎不全の人
- ・甲状腺機能が低下している人
- ・肝硬変の人
- ・脂肪肝の人
- ・脂肪塞栓症の人
- ・重症筋無力症の人
- ・高齢の人

○この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

●使用量および回数

〔医療機関で使用される場合〕

使用量、使用回数、使用方法などは、あなたの症状などにあわせて、医師が決め、医療機関において注射されます。

通常の使用量および回数は以下のとおりです。

使用方法	使用量および回数
筋肉内注射	1回 20～80mg を 1～2週間おきに使用

関節腔内注射、軟組織内注射、 腱鞘内注射、滑液嚢内注入	1回 2～40mg を2週間以上おきに使用
ネブライザー	1回 2～10mg を1日 1～3回
鼻腔内注入、副鼻腔内注入、喉 頭・気管注入、中耳腔内注入、 耳管内注入	1回 2～10mg を1日 1～3回
鼻甲介内注射、鼻茸内注射	1回 2～40mg
食道注入	1回 2mg

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・この薬の使用により、誘発感染症、続発性副腎皮質機能不全、消化性潰瘍、糖尿病、精神障害などの重篤な副作用があらわれることがあるので、注意してください。

この薬を連用した後、急に使用を中止すると、発熱、頭痛、食欲不振、脱力感、筋肉痛、関節痛、ショックなどがあらわれることがあります。中止する場合は徐々に減量されます。医師の指示どおりに使用してください。

- ・この薬を使用している間、喘息発作が悪化することがあります。薬物、食物、添加物などに過敏な喘息の人は、特に注意してください。
- ・この薬を使用する前に水痘（みずぼうそう）又は麻疹（はしか）にかかったことがあるか、予防接種を受けたことがあるか確認されます。また、水痘または麻疹に感染すると致命的な経過をたどることがあります。感染が疑われる場合はただちに受診してください。

水痘または麻疹にかかったことがあったり、予防接種を受けたことがある人でも感染することがあるので、気をつけてください。

- ・B型肝炎ウイルスキャリアの人は、B型肝炎ウイルスの増殖による肝炎があらわれることがあります。この薬の使用後や使用終了後に継続して血液検査が行われます。発熱、倦怠感（けんたいかん）、皮膚や白目が黄色くなるなどの症状があらわれた場合には、速やかに医師に連絡してください。なお、使用開始前にHBs抗原陰性の人で、B型肝炎ウイルスによる肝炎を発症した症例が報告されています。
- ・強皮症の人は、この薬の使用で強皮症腎クリーゼがあらわれやすくなるとの報告があります。使用中は血圧や腎機能検査が行われます。頭痛、むかむかする、嘔吐（おうと）、視力低下、けいれんなどの症状があらわれた場合には、速やかに医師に連絡してください。
- ・筋肉内注射時には、注射液が脂肪層に逆流し、萎縮して皮膚陥没（皮膚が著しくへこむこと）を起こすことがあります。このことについて、あらかじめ説明を受けてください。また、注射部位をもまないようにしてください。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- ・授乳中の人は、授乳は避けてください。

- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。

このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
誘発感染症、感染症の増悪 ゆうはつかんせんしょう、かんせんしょうのぞうあく	かぜのような症状、からだがだるい、発熱、嘔吐 〔B型肝炎ウイルスの増殖による肝炎としてあらわれる場合〕 吐き気、嘔吐、食欲不振、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる
続発性副腎皮質機能不全 ぞくはつせいふくじんひしつきのうふぜん	からだがだるい、力が入らない、吐き気、嘔吐、食欲不振、低血圧
糖尿病 とうにょうびょう	からだがだるい、体重が減る、のどの渇き、水を多く飲む、尿の量が増える
消化性潰瘍 しょうかせいはいよう	胸やけ、胃のもたれ、背中痛み
膵炎 すいえん	吐き気、嘔吐、胃・おなかの激しい痛み、背中痛み
精神変調 せいしんへんちよう	からだがだるい、ぼんやりする、考えがまとまらない、気分が落ち込む、食欲不振、どうしたらよいかわからない、やる気がおきない、気分がふさぎ込む、上機嫌、情緒不安、眠りが浅い、夜中に目がさめる
うつ状態 うつじょうたい	やる気がおきない、気分がふさぎ込む、気分が落ち込む、不眠
痙攣 けいれん	けいれん
骨粗鬆症 こつそしょうしょう	腰・背中痛み、骨折しやすくなる、手足の痛み
骨頭無菌性壊死 こつとうむきんせいえし	関節の痛み、股関節の痛み、太もも前面の痛み、膝の関節の痛み、歩行障害
ミオパシー	筋肉の痛み、筋肉のこわばり、筋力の低下
緑内障 りよくないしょう	頭痛、眼の痛み、視力の低下、吐き気
後のう白内障 こうのうはくないしょう	眼のかすみ、光がまぶしく感じる、視力の低下

重大な副作用	主な自覚症状
血栓症 けっせんしょう	血を吐く、吐き気、嘔吐、胸の痛み、胸をしめつけられる感じ、胸を強く押さえつけた感じ、激しい腹痛、腹がはる、足の激しい痛み、出血、知覚のまひ
ショック	息切れ、冷や汗、めまい、血の気が引く、意識がうすれる、考えがまとまらない、判断力の低下
アナフィラキシー	からだがだるい、ふらつき、意識の低下、考えがまとまらない、ほてり、眼と口唇のまわりのはれ、しゃがれ声、息苦しい、息切れ、動悸、じんましん、判断力の低下
喘息発作の増悪 ぜんそくほっさのぞうあく	ヒューヒュー音がする、息をするときヒューヒューと音がする、息苦しい、息切れ
失明 しつめい	眼がみえなくなる
視力障害 しりょくしょうがい	ものの形が見えにくい、視力の低下、物が見えない、物が見えにくい
腱断裂 けんだんれつ	腱の痛み、指が動かさない

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	かぜのような症状、からだがだるい、発熱、力が入らない、体重が減る、けいれん、骨折しやすくなる、筋肉の痛み、冷や汗、ふらつき
頭部	ぼんやりする、考えがまとまらない、頭痛、めまい、意識がうすれる、意識の低下
顔面	血の気が引く、ほてり
眼	白目が黄色くなる、眼の痛み、視力の低下、眼のかすみ、光がまぶしく感じる、眼と口唇のまわりのはれ、眼がみえなくなる、ものの形が見えにくい、物が見えない
口や喉	嘔吐、吐き気、のどの渇き、水を多く飲む、血を吐く、しゃがれ声、眼と口唇のまわりのはれ、ヒューヒュー音がする、息をするときヒューヒューと音がする
胸部	吐き気、胸やけ、胸の痛み、胸をしめつけられる感じ、胸を強く押さえつけた感じ、息切れ、息苦しい、動悸
腹部	食欲不振、吐き気、胃もたれ、胃・おなかの激しい痛み、激しい腹痛、腹がはる
背中	背中での痛み、腰・背中での痛み
手・足	手足での痛み、関節での痛み、股関節での痛み、太もも前面での痛み、

部位	自覚症状
	膝の関節の痛み、歩行障害、足の激しい痛み、指が動かせない
皮膚	皮膚が黄色くなる、じんましん
筋肉	筋肉のこわばり、筋肉の痛み、筋力の低下
尿	尿の量が増える
その他	低血圧、どうしたらよいかわからない、やる気がおきない、気分がふさぎ込む、気分が落ち込む、上機嫌、情緒不安、眠りが浅い、夜中に目がさめる、不眠、出血、知覚のまひ、判断力の低下、腱の痛み

【この薬の形は？】

販売名	ケナコルト-A 筋注用関節腔内用水懸注 40mg/ 1 mL
性状	白色の水性懸濁注射液
形状	

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	トリアムシノロンアセトニド
添加物	ベンジルアルコール、ポリソルベート 80、カルメロースナトリウム、塩化ナトリウム、pH 調節剤

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。
製造販売会社 : ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社
(<http://www.bms.co.jp/>)
メディカル情報部
電話 : 0120-093-507
受付時間 : 9:00~17:30
(土、日、祝日並びに当社休日を除く)